



学校だより 神橋

平成31年1月7日
横浜市立神橋小学校

1月号



「前へ」

～北島監督の「魂の戦略」～

校長 末松 隆一郎

明けましておめでとうございます。

平成最後の年、平成31年が始まりました。穏やかな新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。皆様が明るく健康に満ちた1年になりますよう、心からお祈り申し上げます。

今年は、「ラグビーワールドカップ2019日本大会」の開催年です。9月20日の開幕戦「日本 vs ロシア」を皮切りに、約7週間に及ぶ熱戦が日本各地で繰り広げられ、11月2日に、決勝戦が横浜の日産スタジアムで行われます。大会本番に向け、日本代表チームも強豪国とのプレマッチで熱闘を繰り広げるなど、これからますます盛り上がっていくことと思います。4年前のイングランド大会では「Japan way」と呼ばれたその戦いで世界を驚かせてくれた「桜の戦士たち」の活躍に、今からとても楽しみにしています。

私は、毎年1月に決勝戦が行われる全国大学ラグビー選手権をとっても楽しみにしています。特に私は、明治大学が好きで、ささやかに応援を続けてきました。なぜ明治大学なのか、それは、この言葉と出会ったからです。

「前へ」 この言葉は、明治大学ラグビー部に受け継がれている魂の戦略です。かつて明治大学ラグビー部を67年間にわたり監督として努めた稀代の名将がいました。北島忠治監督です。

北島監督は、昭和4年から平成8年まで67年間監督を務め、「重量フォワード」と呼ばれる豪快でパワフルな明大ラグビーを確立しました。その北島監督の、終生貫いた信念の教えが、「明治、前へ」でした。

「相手ゴールに最短距離で行くためには『横へ』ではなく『前へ』である。最短距離へ進めば、当然相手の抵抗力も強くなる。そのために強靱な体力とスピードを身に付け、まっすぐに突破する。」それが、今なお受け継がれている、北島監督が作った「重戦明治」のラグビーです。そしてそれは、一つの戦略としての教えというだけでなく、選手たちへの、人生そのものの教えでもあったそうです。



その教えの原則は、「ボールをもったら躊躇するな。自分の判断に従え。逃げたりためらったりしなければ、失敗してもかまわない。最後まで決してあきらめるな。フェアプレーの精神を忘れるな。」でした。この原則は、生き方そのものに通じるものであり、「前へ」は、単純明快にして、大変力強く奥深い言葉だと思います。社会全体が、様々な課題や困難を抱えている今だからこそ、それぞれが、それぞれの「前」を見据えて進んでいくことが、私たちの「魂の戦略」として、大切なことではないかと思います。

「平成最後の・・・」という言葉がそこかしこから聞こえてくる年の初め、それは新たなる空気に入れ替わる節目の時でもあり、今年は、新年度が始まり春の盛りを感じる頃、新しい時代の幕が開きます。清新な空気に包まれながら、それぞれの夢や希望、抱負や目標を心新たにもち続け、その実現に向け、「前へ」共に進んでいきたいと思ひます。

今年もよろしくお祈りします。